



土佐神社（高知市一宮）は本殿・幣殿及び拝殿・楼門・鼓楼が国の重要文化財に指定されており、高知県を代表する歴史的建造物です。平成31年度から屋根の葺き替えなど、保存のための修理を行います。

写真上「土佐神社拝殿」 右「土佐神社本殿」

1. 国指定重要文化財 土佐神社・朝倉神社	2	11. 国指定重要有形民俗文化財	11
2. 高知県の遍路道	3	「土佐豊永郷及び周辺地域の山村生産用具」	
「竹林寺道・禅師峰寺道」「金剛福寺道・真念庵」		豊永郷民俗資料館について 一人と自然 道具と技術	
3. 山下遺跡 ー中世の集落跡を確認ー	4	12. 中土佐町の文化財	12
4. 東狭間遺跡	4	ー久礼の港と漁師町の景観と久礼八幡宮の御神穀祭ー	
ー津波避難タワー整備に伴う発掘調査ー		13. 香美市の文化財	13
5. 史跡土佐国分寺跡 ー伽藍周辺域の調査ー	5	ー大川上美良布神社社殿の修復工事と御神幸ー	
6. 若宮ノ東遺跡 ー大型掘立柱建物跡の発見ー	6	14. 高知県の登録有形文化財	14
7. 高田遺跡 ー古代の南海道か?物部川沿いで発見ー	7	ー「岬観光ホテル本館・新館」「津田家住宅主屋・付属屋・門及び塀」「田所内科医院主屋」「海のギャラリー」ー	
8. 埋蔵文化財センターの広報普及活動	8	15. 香南市刊行図書紹介	15
ー現地を訪れて見て・学び・感じる講座ー		『香南市の戦争遺産ー高知平野の戦争遺産を見る・知る・伝えるー』	
9. 高知県の天然記念物 ー土佐金魚ー	9	16. 高知城 ーARアプリで楽しむ高知城巡りー	15
10. 史跡岡豊城跡	10	裏表紙 掲載一覧表	16
ー国史跡指定10周年・続日本100名城選定ー			

# 1. 国指定重要文化財 土佐神社・朝倉神社

## 国指定重要文化財 土佐神社(本殿・幣殿及び拝殿)

高知市一宮にある土佐神社は志那禰様の呼び名で有名な、土佐の総鎮守として日本屈指の古社です。創祀は未詳ですが、雄略天皇(457-479)時代の創建とも言われています。『日本書紀』天武4年(675)3月2日の条に「土左大神」が神刀一口を天皇に献上したと記されており、朱鳥元年(686)8月13日の条には秦忌寸石勝が「土左大神」に奉幣したことが記されています。この「土左大神」が本来の祭神で、周辺に大塚という地名が残ることからかつて近くには大型の古墳も存在していたものとみられ、もとは在地の豪族が祀ったものと考えられます。「延喜式」では土佐唯一の大社であり、土佐の一ノ宮といわれました。

当初の社殿は、永禄6年(1563)、本山氏が長宗我部元親の居城岡豊城を襲撃時、一宮の集落を焼討ちした際に焼失しました。元親はその後社殿の再興にとりかかり、現在の社殿は1571(元亀2)年春に完成したものです。

最奥部の本殿、その前方の幣殿・拝殿と左右にのびる翼、前方にのびる拝の出が十字形の形になっています。このような社殿が十字形となっているものを「とんぼ造」といいます。土佐神社の場合は、幣殿を短く、尾に相当する拝の出を長くした十字形で、とんぼが飛び込む形にみためをたいて

ゆる「入とんぼ」と言われ、凱旋を報告する社という意味があります。



鮮やかに彩色された龍の木鼻



本殿向拝にある木鼻と虹梁 白い象が裝飾されている

## 国指定重要文化財 朝倉神社(本殿)

朝倉神社の本殿の創建と沿革は明らかではありませんが、土佐国風土記にも記されている古社で、古くから付近の総鎮守として信仰されています。国内祈願を一宮の土佐神社と交替で務めたといわれ、土佐神社の一ノ宮に対して二ノ宮といわれたこともあります。



朝倉神社本殿

天正16年(1588)の『朝倉庄地檢帳』に「大宮」と記され、その後土佐に入国した山内家からも厚く崇敬されていました。現在の本殿は、明暦3年(1657)土佐藩2代目藩主忠義が再興したものです。

全体的に極彩色が施され、傑出した彫刻が飾られています。内部にも鮮やかな彩色があり、天井三面には天女や迦陵頻伽が描かれています。桃山建築の遺風を継ぐ美しい建築物として、須崎市の鳴無神社とならび称されています。

## 平成31年度保存修理事業について

それぞれの神社の屋根は、柿葺といい、サワラやスギを薄く割った板を少しずつずらして重ねて葺いています。風雨や日光にさらされるため、定期的な葺替えが必要となります。平成31年度より土佐神社、朝倉神社ともに葺替えを伴う保存修理を行う予定です。(高知市教育委員会 吉村健吉)



彩色で裝飾された本殿西側

## 2. 高知県の遍路道

### 「竹林寺道・禅師峰寺道」「金剛福寺道・真念庵」

弘法大師空海の軌跡をたどる四国遍路。その巡礼の道として、江戸時代よりお遍路さんがあるいた道は時代とともに姿を変えてきました。その中でも、現在高知県内で古道(切り通しのある土道、石敷きなど)の形態が残る遍路道は約28kmです。

#### 「竹林寺道・禅師峰寺道」について

改変されずに残っている遍路道の中でも第三十一番札所竹林寺への往來の道は、江戸時代の道標(次の札所寺院までの距離などを記した石造物)や、土佐における日蓮宗の考察に重要な貞享元年(1684)の銘が刻まれた貞享元年銘法華経塔(高知県指定文化財)などが、山中に点在しており、歴史的な趣が色濃く残る道です。



貞享元年銘法華経塔

竹林寺を開いたとされる行基(668-649)は、聖武天皇の勅願を受け、中国唐の五台山になぞらえ竹林寺を開いたとされ、現在の寺院の東側(県立牧野植物園の敷地内)には、数多くの堂宇や寺院関係の建物があつ、それらをつなぐ道筋は遍路道として利用されただけではなく、多くの参拝者や寺院関係者の往來がありました。ここには土佐歴代藩主が祈願寺である竹林寺に赴く際に参詣道として使用した、堅固な石敷きの道も残っています。



竹林寺より禅師峰寺への道

#### 「金剛福寺道・真念庵」について

高知県西部、土佐清水市市野瀬には遍路案内記(現代でいうガイドブック)「四國遍路道指南」(1687)を記した、真念が創立したと伝えられる「真念庵」があります。真念はこの案内記によって、四国遍

路の巡礼を定型的なものにし、巡礼の旅を当時の世に広めました。また、四国各地に遍路の安全祈願のため、遍路道沿いに道標の建立を発願しています。四国各地に残る真念の足跡ですが、その出自や経歴は不明なところが多く、この庵の前にある供養石仏によって没年が元禄5年(1693)と記されています。

真念庵のある市野瀬から第三十八番札所金剛福寺までの間は「足摺七里打戻り」といわれます。逆戻りのルートの起点に創立された、この庵は遍路に宿を提供する善根宿や荷物置きとして利用され、遍路と地元の人々をつないできました。

足摺までの遍路道(市野瀬～下ノ加江～以布利～窪津～大谷まで)には真念の道標とともに金剛福寺までの道りを記した丁石も多数点在しており、自然石に美作や作州など山陽地方の施主名が刻まれているものが数多く残っています。現在は国道に寸断されている箇所もありますが、波の音を聞きながら歩く遍路道にはかつての往來を今に伝え、昨今は地元の保存会の皆さんで整備もされ、各地からのお遍路さんを迎えています。

四万十町にある第三十七番札所岩本寺から金剛福寺までの道りは、四国遍路全体を見ても札所間の距離は最長となります。



真念庵

施主が作州と刻まれた丁石(百廿五丁石)

現在も巡礼の道として使われ、かつての景観をとどめた遍路道は生きた文化資産です。今後、文化財としての価値付けとともに、次の世代に残し伝えるために、その活用と保全について、地域の皆さんとともに持続可能な方法を検討していく事が必要と考えています。

(高知県教育委員会文化財課 尾崎)

### 3. 山下遺跡 – 中世の集落跡を確認 –

山下遺跡は、香南市野市町東野（山下地区）に所在します。香南市役所新庁舎建設計画に伴い平成30年2月中旬より発掘調査を実施しました。

調査では溝跡や掘立柱建物跡、土坑墓(当時の墓)などの遺構が発見されました。調査区東端の南北に伸びる溝跡は幅1～1.5mと規模が大きく、屋敷地の区画溝と考えられます。この溝跡から12世紀頃の土師質土器の杯、西側に平行する溝跡から中国同安窯の青磁片が出土しました。

その他に、室町時代の掘立柱建物跡や土坑墓も発見されています。掘立柱建物跡は2棟で、どちらも調査区外へと続きますが3間以上の規模です。柱穴からは15世紀頃の土師質土器の杯が2枚重ねられた状態で出土しました。



室町時代の土坑墓から出土した土器

また、土坑墓は、建物跡と同時期の手づくね土器や土師質土器の杯が埋納されており、3基確認されています。

香南市役所周辺はこれまで、物部川からの引水によって近世以降に発展した集落であると考えられてきましたが、今回の調査によって平安時代末頃から室町時代にも集落として機能していたことがわかりました。また、土坑墓から出土した土器は、この時代の貴重な一括資料として注目されています。

(香南市教育委員会 横山 藍)



発掘現場（後方は香南市役所）

### 4. 東狭間遺跡 – 津波避難タワー整備に伴う発掘調査 –

東狭間遺跡は、香南市吉川町吉原に所在しています。県の農村防災施設整備事業による津波避難タワー建設に伴う試掘調査により新たに発見された遺跡で、標高4m前後を測る沖積扇状地の旧河道に挟まれた自然堤防に立地しています。

平成29年度に実施した本発掘調査では、数千点の弥生後期後葉(約1,800年前)の土器片と竪穴住居遺構などの集落跡を検出しました。集落成立の背景には、物部川下流域東岸の段丘縁辺部に分布する弥生時代終末～古墳時代初頭にかけての遺跡群

との関連が推察されます。

また古代(奈良・平安時代)の可能性が考えられる掘立柱建物跡を検出するなど、この地域の歴史に関する新しい発見もありました。

発掘調査に際しては、地区の方々を対象とした現地説明会に多数ご参加して頂けるなど、埋蔵文化財の保護に対する地域住民の関心の高さと、ご理解・ご協力に深謝いたします。

(香南市教育委員会 宮地啓介)



出土した弥生土器



現地説明会（東狭間遺跡）

## 5. 史跡土佐国分寺跡 — 伽藍<sup>がらん</sup>周辺域の調査 —

### 調査にいたる経緯

土佐国分寺は、天平13年(741)に聖武天皇の「国分寺建立の詔」を受けて国ごとに建てられた古代寺院の一つで、現在の四国霊場第29番札所国分寺を中心とした範囲が大正11年に高知県で初めての国の史跡に指定されました。ところが、史跡範囲外にも伽藍が広がることが分かったため、南国市教育委員会は史跡土佐国分寺跡の寺域確認調査を平成28年度から開始し、今回が3回目の調査です。これまでの調査で、伽藍を囲む築地塀の痕跡を確認しており、それより外側からも溝や柱穴などの遺構が多数見つかっています。

古代寺院において、「伽藍<sup>がらん</sup>」とは僧侶が集まり、お経をあげたりする法会の場で金堂や講堂、塔などの中心的な宗教施設が置かれていました。伽藍の周辺には寺の運営にかかわる施設の置かれた「付属院地<sup>ふぞくいんち</sup>」の空間がありました。伽藍と付属院地の両方を含めた空間を「寺域」と呼び、今回の調査は、寺域の範囲を確認することが目的です。



土佐国分寺跡空撮

### 調査の成果

調査の結果、伽藍地の外側から何条もの溝が見つかり、様々な施設を溝によって区画していた可能性が見えてきました。しかも北端で東西方向に延びる溝は昨年の調査で見つかった北溝と一直線に並びます。これは、現在の道にも平行しており、古代の地割が現在までほぼ踏襲されてきたものと考えられます。また、弥生・古墳時代から古代・中世に至るまでの様々な遺構・遺物が出土し、国分寺を取り巻く環境の変化も見ることができます。

これまでの発掘調査では伽藍中心部に焦点が当てられたものが多く、周辺部の状況はほとんど分かっていませんでした。特に東側の遺構の広がりには全く不明でした。そのため、今回の調査により築地塀より外側から古代の遺構が多数見つかったことは、寺域の範囲を考える上で大きな手がかりになると言えます。



溝跡出土土器



国分寺北溝

### まとめ

3次にわたる調査によって、想像される土佐国分寺の姿は大きく変わってきました。特に、築地塀に囲まれた伽藍地やその周囲の様相は周辺に調査を広げることで初めて明らかとなりました。全国的に見ても、寺域全体の様相が分かっている例はあまり多くありません。そんな中で、今回の調査で古代土佐国分寺の伽藍を取り巻く周辺状況の一部が明らかとなったことは、非常に重要な成果といえます。また、この調査で確認された遺構は、現在の地割に沿うものが多く、歴史的景観が最も色濃く残っている地域と言えます。

これまでの調査では寺域範囲の確定までは至らなかったため、南国市教育委員会では、来年度も伽藍地および寺域の調査を進めていき、古代国分寺の本来の姿を明らかにしていきたいと考えています。

(南国市教育委員会 油利 崇)

## 6. 若宮ノ東遺跡 – 大型掘立柱建物跡の発見 –

若宮ノ東遺跡（南国市）では都市計画道路高知南国線の建設に伴って平成28年度から継続して埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われています。また、平成29年10月からは南国市の篠原土地区画整理事業に伴ない、南国市教育委員会による発掘調査も並行して行われています。

### 埋蔵文化財センターによる調査

今年度の調査では飛鳥時代の大型掘立柱建物跡が見つかりました。柱穴は一辺約1.2mの方形でとても大きく、南北に3個ずつ、東西に8個ずつが整然と並び、正確な測量が行なわれていました。これらの大きな柱穴に直径約30cmの柱が立てられていたと考えられます。床面積は南北約6m、東西約21mの約126㎡となり、高知県内では最大規模のものです。



大型の掘立柱建物跡

この建物跡と平成28・29年度に見つかった大型の柱穴列や溝跡が位置関係から一連の施設であることが明らかとなりました。建物跡の周囲には塀を巡らせ、さらにその外側に溝を巡らせていました。飛鳥時代の役所があったと考えられます。飛鳥時代は奈良県に都を造り、中央集権国家を目指していた時代で、古墳時代的な支配体制からの転換期にあたります。



柱穴を掘っている様子

今回の成果は土佐（高知県）がどのようにして律令国家に組み込まれていったかを考古学的に明らかにすることができる重要な成果と言えます。

（高知県埋蔵文化財センター 久家隆芳）

### 南国市教育委員会による調査

発掘調査では、弥生時代後期から近現代にいたるまでの様々な遺構・遺物を確認しています。そのなかでも、弥生時代後期～古墳時代初頭（約1800～1700年前）と平安時代（約1100～900年前）の2つの時期に遺跡が特に栄えていたことが分かってきました。

今後、発掘調査は約4年間続く予定で、若宮ノ東遺跡内を広く調査していきます。また、埋蔵文化財センターも高知南国線の建設に伴う発掘調査を続けていくことになっています。そのため、それぞれの調査成果を共有することで、より遺跡の全体像を明らかにし、土佐の歴史を解明していくことができると考えられます。

（南国市教育委員会 山崎美希）



調査区遠景（南国市教育委員会）



溝跡出土の青磁（南国市教育委員会）

## 7. 高田遺跡 – 古代の南海道か!?物部川沿いで発見–

「古代の道」と聞くと、皆さんはどのようなイメージが浮かびますか。人や馬が通れるくらいの狭くて曲がりくねった道でしょうか。

香南市の物部川下流東岸にある高田遺跡の発掘調査で、2条の真っ直ぐな溝跡が見つかりました。出土した土器から、奈良時代に埋まったものと考えられます。

このような事例は近年各地でみつかり、道路の両側に付く側溝の跡と考えられます。なかには、路面の凹凸やぬかるみを補修した跡や、硬い路面の跡が残っていた例もあります。側溝間の

幅が6～12mに及び、真っ直ぐにのびる道は、古代と呼ばれる飛鳥時代後半～平安時代初期頃に多いこともわかってきました。

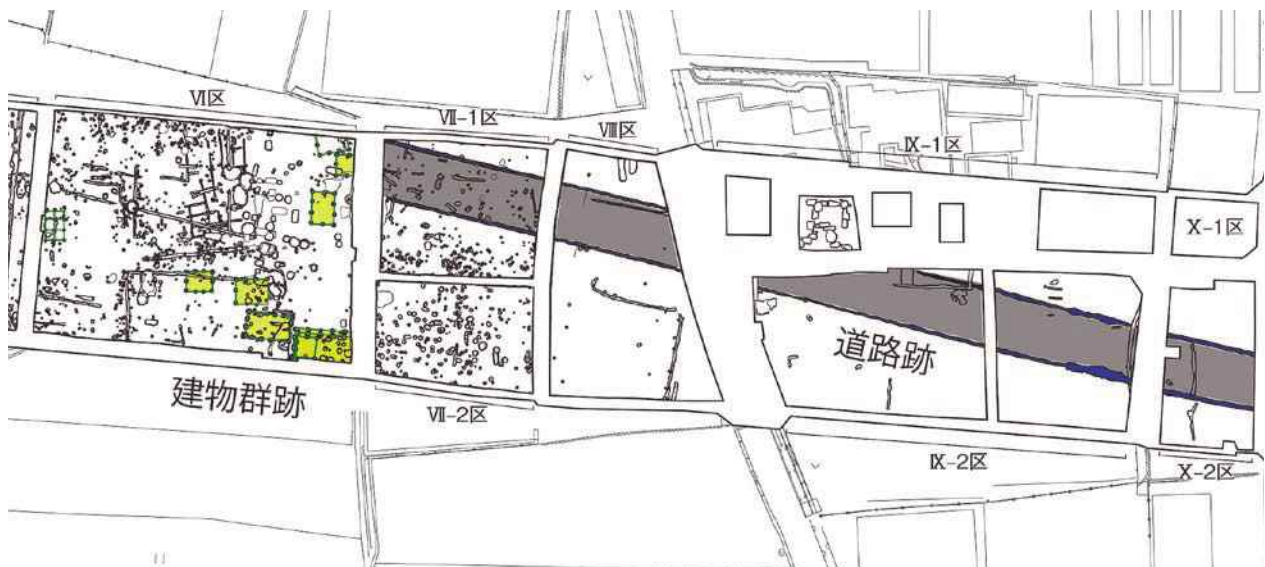
この時代の地方では、畿内を中心にして、中国の律令制度にならった中央集権的な国家が作り上げられていました。中央と地方の連絡を素早く行うための「官道」とそこを走る馬の交替や宿泊のための「駅」を全国に張りめぐらせました。発掘で出土するこれらの「公的な道」の跡は、できる限り直線を目指しており、丘を削ったり湿地を埋めて真っ直ぐにする場合もあります。このように立派な



出土した道路側溝跡

な道路を造った背景には、国家の力を誇示する意図もあったと考えられます。四国には「南海道」が整備され、その道は土佐にも達していました。高田遺跡でみつかった古代道路跡の幅は10.4mで、土佐では最大、四国でも最大級です。当時の香美郡の重要な道路であったとみられ、南海道の可能性もあります。土佐の歴史地理を考える上で重要な資料と言えるでしょう。

(埋蔵文化財センター 池澤俊幸)



遺構平面図

## 8. 埋蔵文化財センターの広報普及活動 －現地を訪れて見て・学び・感じる講座－

これまでは歴史好きの方以外には認知度が高いとは言えなかった埋蔵文化財センターですが、企画展示や公開講座のほか出前考古学教室や親子考古学教室、まいぶんセンターまつりなど多くの方に参加していただける行事を通じて、家族連れや地域の子どもの来館も増え、来館者の年齢層は幅広くなってきています。

歴史や考古学について学ぶことのできる場所であるとともに、昔の人々の暮らしに興味・関心をもっていただくために、気軽に利用していただける施設を目指してHPや年間行事カレンダー等で情報発信を行っています。そのなかから、現地を訪れてフィールドワークを行う2講座を紹介します。

### 考古学から学ぶ史跡の見方

史跡として保存や整備が行われている遺跡を訪ねて、考古学の観点から見所を解説することで、より深く史跡について学ぶ講座で、2年目の開催です。

今年の第1回は、国史跡として家臣の屋敷跡などが復元整備されている「湯築城跡」(愛媛県松山市)、第2回は現在に続く土佐藩窯業の隆盛地の県史跡「能茶山窯跡」を訪ねました。第3回の「土佐の砲台跡一前浜、浦戸、須崎一」は土佐湾岸に残る3箇所の砲台跡を巡りました。特に国史跡の須崎砲台跡は、ほぼ当時の姿が残っており、幕末の対外国船対策の緊張感がうかがえました。第4回は城下の武家屋敷の地割り(土地を計画的に区画したもの)や建物がよく残ることから国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「土居廓中」及び安芸城跡(安芸市)を訪ねました。



史跡須崎砲台跡

### 所長の山城講座と城歩き

今年度から新たに始めた講座です。中世山城の基礎知識についての講義を2回、実際の山城を訪ねてのフィールドワークを2回開催しました。布師田金山城(高知市)は、地元の保存会の方が案内板の設置や草刈りなどを行って下さり、たいへん遺構が見やすくなっています。参加者40名とともに麓から登り始め、途中で滑りやすい急な登りもありますが、縦堀や横堀などの遺構の残る場所では解説を行いました。本物の遺構の迫力とともに、話や曲輪からは城主が眺めたであろう当時の風景に思いを馳せることができました。2回目は高知市の筆山公園にある潮江城跡を訪ねました。



山城講座(布師田城でのフィールドワーク)



山城講座(センターでの講座の様子)

平成31年度も埋蔵文化財センターでは県内の史跡などをめぐる、フィールドワークを計画しています。歴史を見て・学び・感じる楽しさを一緒に体験しませんか。詳しくは右のホームページをご覧ください。

(埋蔵文化財センター 坂本裕一)



QRコード



## 9. 高知県の天然記念物 —土佐金魚—

日本各地には地域で品種が固定された三大地金魚が飼育されており、「土佐金魚」は愛知県の「地金」、島根県の「出雲ナンキン」とおなじく、県の天然記念物に指定(昭和44年)されています。

その起源は大阪ランチュウと琉金を交配させたものの中から、江戸時代後期より品種の改良がされ、戦火や昭和南海大地震など死滅の危機を乗り越え、愛好家の熱意により保存飼育されてきました。高知県で指定をされている天然記念物の飼育動物の中では「長尾鶏」が有名ですが、「土佐金魚」は温度の管理など飼育の難しさから大いに珍重され、現在は観賞魚として県内外の多くの愛好家によって飼育されています。

### 土佐金魚の特徴について

指定当時の申請書には「形状は肢体優美にして口元小さく愛嬌があり、その尻尾は大きく反転して先端は体の半ばをこえ、優雅に泳ぐを見るにまるで牡丹の花の今を盛りと咲き匂う姿にも似ている。」と特徴が記載され、泳ぐ姿を牡丹の花になぞらえその優雅さが表現されています。

このように、「土佐金魚」最大の特徴は大輪の花が開くように美しく広がった尾<sup>おびれ</sup>で、上から鑑賞した際に扇のように左右均等であることがポイントです。また、尾<sup>おびれ</sup>の両脇がレースのように均一に反転している姿が最良とされています。

生まれて1年の「当歳」と呼ばれるものから、年数を経過することで美しく色変わりをしていくのも魅力の一つです。色の違いによって呼び名があ

第44回 土佐錦魚保存会全国品評大会



親魚の部優勝魚 (土佐錦魚保存会提供)

当歳魚<sup>おびれ</sup>の部優勝魚

り、赤い色を「素赤<sup>すあか</sup>」といい、体に白い模様のあるものを「更紗<sup>さらさ</sup>」といい、いずれも色の濃いものが最良であるとされます。また、「更紗」の中にも色と模様によってさまざまな名称で分けられています。

土佐金魚の寿命は約10年です。個体差があるものの、色変わりするまで平均2年～3年、成長すると体長は約18cmほどの大きさです。



二歳魚優勝魚  
(日本土佐錦魚保存協会提供)

と体長は約18cmほどの大きさです。稚魚から飼育する際は丸鉢(朝顔型・すり鉢型)の円錐形の容器で飼育します。水温による対流作用や、円を描いてよく泳ぐことで、尾の骨格をつくり、大きな尾<sup>おびれ</sup>がつくられるといわれています。

### 土佐金魚の保存について

高知県では現在二つの保存団体があり、金魚の普及や飼育の奨励を目的に、毎年品評会を開催しています。品評会では審査基準により、上位の金魚とその飼育者を表彰し、飼育の技術向上や情報交換を行っています。

(高知県教育委員会文化財課 尾崎)



日本土佐錦魚保存協会の皆さん



土佐錦魚保存会の皆さん

# 10. 史跡岡豊城跡

## －国史跡指定10周年・続日本100名城選定－

### 岡豊城跡について

南国市岡豊町にある岡豊城跡は、戦国時代に土佐を統一し、四国全土へ勢力を広げていった長宗我部氏の居城として知られています。岡豊城跡は平成20年に国史跡に指定されてから10周年を迎え、平成29年には続日本100名城にも選定されました。



岡豊城跡

### 記念講演会

これらを記念して、南国市では、「岡豊城の魅力再発見!!」と題して平成30年12月5日に県立歴史民俗資料館にて記念講演会を開催しました。

記念講演は滋賀県立大学教授かつ、続日本100名城選定委員でもある中井均氏に「岡豊城が続日本100名城に選ばれたわけ」と題して講演していただきました。

講演の中で岡豊城跡の最大の特徴は戦国時代の山城から石垣や瓦を使った城へ変化する過渡期の城であることが挙げられました。特に安土城よりも前に瓦を使っているという画期的な発見があった全国的にも注目されている貴重な城であることが評価され、続日本100名城に選定されたとのことでした。



長宗我部フェスの様子

座談会ではコーディネーターに県立埋蔵文化財センター所長の松田直則氏を迎え、中井均氏と城郭ライターの萩原さちこ氏が加わって、岡豊城の魅力について語り合ってもらいました。その中で、史跡の活用の例として岡豊城跡の中腹に立地する県立歴史民俗資料館を核として様々なイベントが催されていることが取り上げられました。岡豊山さくらまつりや長宗我部フェスなどは回数を重ねるごとに定着して、多くのファンを生み出しています。県外の山城では、狼煙リレーや合戦ごっこなど魅力的な様々なイベントが行われており、そうした好例を吸収することでさらに岡豊城の魅力が広く伝わっていくという提案もありました。

その後、舞台を岡豊城内に移して、城の見どころや魅力について話しながら実際の遺構を見て歩きました。特に、虎口では、強固な守りを作るために地形を生かして様々な遺構が配置されており、当時の築城技術の高さを熱弁され、山城の「萌え」要素に触れることができました。普段何気なく歩いている山城もどのように攻めれば攻略できるか想像しながら登ると、たちまち臨場感あふれる歴史の舞台になることが体感できた講演会でした。



史跡散策の様子

岡豊城跡は地域の自然あふれる里山として愛されているだけでなく、山城研究の上で全国的に注目されている土佐を代表する城でもあります。これからも岡豊城跡を身近に感じられるよう、この史跡を地域と一体となって守り育てていきたいと思えます。

(南国市教育委員会 油利 崇)

# 11. 国指定重要有形民俗文化財「土佐豊永郷及び周辺地域の山村生産用具」 豊永郷民俗資料館について -人と自然 道具と技術-

## 豊永郷について

現在の大豊町のうち杉地区や北西部地区を除く、大部分の地域が江戸時代まで豊永郷と呼ばれる地域でした。その中心地であった場所が、現在のJR豊永駅周辺の地域です。江戸時代に記された寛保郷帳<sup>かんぼごうちょう</sup>には約9,000人以上が豊永郷に住んでいたことが記されています。



柚木地区の棚田（標高500m～700m）

## 豊永郷の人々

豊永郷では明治28年に「東豊永村勸業会第一回品評会」が行われるなど、早くから農作物の試験、研究が行われてきました。標高600mを超える西峰地区では明治29年に農事試験田が設置されています。多くの豊永郷の人々は、熱心に仕事をしていました。朝は明るくなる前に移動し、夜は暗くなってから帰宅をしていました。食事は1日5食とっていました。品評会に出品された品目は、葉煙草・茶・三楮<sup>はたばこ</sup>・楮<sup>みつ</sup>・米・漆・大豆・小豆<sup>また</sup>・太布<sup>こうぞ</sup>・紙でした。



岩原地区の紙漉きの小屋

## 人と自然、道具と技術

豊永郷民俗資料館には、豊永郷の人々が生活で使用してきた道具が、昭和30年代から収集され約12,000点が保存されています。その内2,596点が国指定の文化財となっています。これらの資料は「人と自然、道具と技術」というテーマで展示されています。民具といえば、古い道具という印象が強いと思います。一方で民具は豊永郷の人々がど

のように自然と向き合い、生活を営んできたのかを伝える貴重な資料でもあります。

我々は自分の体でできないことを道具に頼り、生活をより良くしてきました。道具を使用することで技術が発達し、技術が道具を発展させてきました。道具と技術の発展は、人や社会を変化させてきました。ドラマ『下町ロケット』では、「技術者は物を相手にしているように見えて、実は人の心を相手にしている」と言っていました。道具と技術の土台には、「より品質のいいものを収穫したい」「もっと効率的に作業をしたい」という人の感情があります。人の心が、道具や技術を発展させる原動力になっています。



資料館内部

大鋸

## まとめ

人は生きるために、道具と技術を発達させてきました。人と自然を結ぶものが道具と技術でした。道具と技術の発達により、快適な生活が誕生し、社会は変化しました。店頭で販売されている物の背景には、それらを生産するための人と環境があり道具と技術があります。豊永郷民俗資料館では、豊永郷の人々が使用した民具を通して、人、自然、道具、技術について何かを感じて頂ければと思っています。

豊永郷民俗資料館へのアクセスは右のホームページをご覧下さい。



QRコード

(豊永郷民俗資料館 主任学芸員 釣井龍秀)

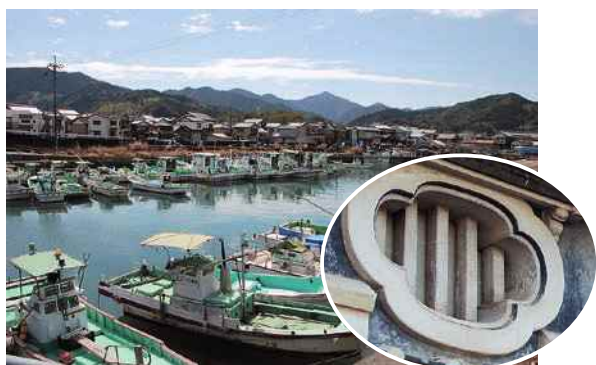
## 12. 中土佐町の文化財

### —久礼の港と漁師町の景観と久礼八幡宮の御神穀祭—

#### 重要文化的景観「久礼の港と漁師町の景観」

中土佐町久礼地区は高知県中西部、土佐湾に面した町で、古くより、陸路・海路の要の地として重要な位置にありました。

海運による交易は久礼の町並みに多様な文化をもたらせ、「水切り瓦」や「土佐漆喰」など、南から来襲する台風の暴風雨にさらされる住居に対する人々の知恵と工夫の跡が多く残っています。戦後には、木材関連事業に変わって鰹漁が久礼の中心的な産業へと発展しました。このように、久礼の港と漁師町は中世期から近世期にかけて繁栄した港を核として形成された市街地が、鰹漁とともに発展した漁師町や漁港と相まって形成される独特の景観を残し、平成23年2月7日に国の重要文化的景観に選定されています。



久礼の港（内港）

土佐漆喰の虫籠窓

#### 久礼八幡宮の御神穀祭

久礼八幡宮は、応神天皇など六神を祭神とする神社で、久礼の中心部に位置し、太平洋を正面にして鎮座しています。創建年代は詳しくは分かりませんが、中世久礼の領主であった佐竹氏が勧請したと言われているほか、正面の浜に祭神が流れ着いたとも伝えられています。

秋季例大祭で行われる行事では、御籠祭に始まり、奉堂立祭、御開扉祭、御神穀祭、田植式などさまざまな祭事があり、地域の安全や豊穡を祈願しています。秋季例大祭の中で一番の盛り上がりを見せるのが旧暦8月13日の夕方から14日の明朝にかけて行われる御神穀祭です。孟宗竹3本を芯にして割竹や松材とともに束ねた大松明（直径

80cm前後・全長5～6m・

重量約1t）を先頭に久礼の町を練り歩きます。この大松明は、御神穀を導き、邪気を祓う火でもあるとされ、長さ3mほどの棒2本を直角に渡して40人ほどが交代で担ぎます。一行には神職のほか、



御神穀祭（大松明）

大太鼓、小松明、大櫛を持った露払い、大きな御幣を持った御幣持ちなども従い、神社に近づくと前年のトウヤ（山中などに奉堂地という聖地を有する家）組も小松明を手に加わります。夜明前、午前4時頃になると神穀入殿として御神穀担いが駆け足で社殿に入り御神穀を供えます。次いで、1人の男性が大松明とともに境外にでて水を汲んできます。屑（舞を奉納する3人の巫女）はこの水を受け取り、御神穀の飯と麴に加えて一夜酒を醸して神前に供えます。また、大松明は境内に投げ出され、熾き拾いと称して氏子や参詣者が燃え枝を奪い合います。燃え枝は魔除けになると言われています。

久礼八幡宮の御神穀祭は、「古風を保ちながら、地域的特色も顕著であり、我が国の民間における神祭りの在り方を考える上で注目される」として、平成30年3月8日文化庁により、「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されました。中土佐町は、平成31年度からこの記録作成のための調査を国庫補助事業により進めていく予定です。



久礼八幡宮

（中土佐町教育委員会 吉村知久）

# 13. 香美市の文化財

## —大川上美良布神社社殿の修復工事と御神幸—

### 大川上美良布神社の歴史

大川上美良布神社は、香美市香北町<sup>にろうの</sup>葦生野にあります。延喜式神名帳<sup>えんぎしきじんみょうちょう</sup>という、延長5年(927)にまとめられた『延喜式』の巻九・十に記載された神社で、由緒ある神社として有名です。室町・戦国時代にも山田氏と長宗我部氏からの崇敬を集め、江戸時代には山内家が社殿修理を助けてました。

### 建物の特徴

県下でも有数の優れた彫刻が特徴で、本殿には土佐国の名手として名高い島村安孝<sup>しまむらやすたか</sup>や原卯平<sup>はらうへい</sup>の彫刻が施されています。本殿の腰欄間には中国の故事に基づく物語が描かれており、ダイナミックです。敷地内には高知県指定文化財である社殿の他にも香美市指定文化財の「通夜殿」、国登録文化財の「神庫」があり、広い敷地の中でそれぞれが調和しています。

### 台風による被害とその後

平成29年10月の台風被害を受け、大川上美良布神社本殿と神庫の屋根に大木が倒れかかり、大きな被害を受けました。

この状況は、台風被害を伝える地元ニュースでも大きく報道され、一刻も早い修復に向けて地元と自治体が動き始めました。平成29年度から30年度にかけて、本殿と幣殿の屋根や木組柵、神庫の屋根などの修復をおこない、ようやく元どおりの姿に戻りました。

本殿の屋根を修復するために足場を組んでいた  
ので、この機会を利用して平成30年5月20日に、優れた彫刻や屋根の建築技法を間近で見て大川上美良布神社をより知ってもらおうと、現地説明会を行いました。



台風被害を受けた  
大川上美良布神社社殿

神社の特徴である、緻密な彫刻を近くで見える機会は滅多に無いため、当日は90人ほどの見学者が訪れました。交互に足場を登り、説明を熱心に聞きながら彫刻や屋根を見た後は、社務所で同時公開をしていた銅鐸二基(県指定文化財)を見ることができました。銅鐸は総高82.1cmのものと、68.3cmのものがあり、どちらも保存状態は良く、夏祭や御神幸の日に合わせて一般公開しています。



修復中の見学会



袈裟禪文銅鐸  
(大川上美良布神社所蔵)

### 大川上美良布神社の御神幸

秋の大祭である「大川上美良布神社の御神幸」は毎年11月3日に執り行われ、江戸時代(1820年頃)に神幸行列の様子を記録した古文書があり、当時の様子を窺い知ることができます。祭りは長い行列の中に碁盤持<sup>ごばんもち</sup>、羽熊<sup>はぐま</sup>、御神輿<sup>おみこし</sup>などの飾りを持つ人々が続き、引馬には神主が騎乗します。歴史的な趣を今に残し県の無形民俗文化財に指定されています。(香美市教育委員会 小林麻由)



大川上美良布神社の御神幸 (撮影 明石正氏)  
※鳥毛とよばれる祭りの道具を拝殿に練り込む

## 14. 高知県の登録有形文化財 - 「岬観光ホテル本館・新館」「津田家住宅主屋・付属屋・門及び塀」「田所内科医院主屋」「海のギャラリー」 -

国の文化審議会(会長 佐藤 信)は平成30年11月16日(金)開催の同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに185件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申を行いました。

高知県関係では室戸市岬観光ホテル(本館・新館)で2件、安芸市津田家住宅(主屋・付属屋・門及び塀)で3件、土佐市田所内科医院主屋で1件、土佐清水市海のギャラリーで1件の合計7件が登録されます。この結果、高知県の登録有形文化財(建造物)については新たに4カ所、7件が登録となり、全部で283件となります。

### 岬観光ホテル本館・新館

本館は木造2階1部3階地下1階建て、瓦葺きで、昭和初期の室戸岬観光開発期に整備された唯一の宿泊施設で、当時の様相を伝えています。新館は木造2階建て、瓦葺きで、昭和中期の室戸岬観光発展期の様相を伝える建物となっています。



岬観光ホテル本館

### 津田家住宅主屋・付属屋・門及び塀

主屋は木造平屋建て、瓦葺きとなり、付属屋と門及び塀も併せて登録となります。建物は重要伝統的建造物群保存地区「土居廓中」に隣接しており、武家地の景観を継承する近代和風の住宅といえます。



津田家住宅主屋

### 田所内科医院主屋

土佐市役所北東部に隣接して建つ診療所兼住宅で、木造平屋建て、瓦葺きで、入母屋造りとなっています。外壁は漆喰塗りで、西面の壁には水切り瓦が1段設けられています。現役の医院として旧市街の歴史的景観を伝えています。



田所内科医院主屋

### 海のギャラリー

建築家林雅子の初期の代表作で、鉄筋コンクリート造り2階建てで、コンクリート打防水仕上げとなっています。建物は柱と梁を使用しない折板構造に大きな特徴があり、2階に上がる階段は2階の床に接続されていません。屋根は二枚貝が天に向かってわずかに開いた様となり、大棟の天窓からの採光は2階の展示室を水中のような幻想的な空間につくりあげています。平成15年(2003)にDOCOMOMO Japan「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選定されています。



海のギャラリー

(高知県教育委員会文化財課 廣田)

# 15. 香南市刊行図書紹介

## 『香南市の戦争遺産－高知平野の戦争遺産を見る・知る・伝える－』

平成23年から24年にかけて香南市夜須町の山中で旧日本海軍砲台跡が相次いで発見されました。海軍砲台跡としては四国最大級のコンクリート構造物で「手結砲台」と呼ばれる戦争遺跡です。

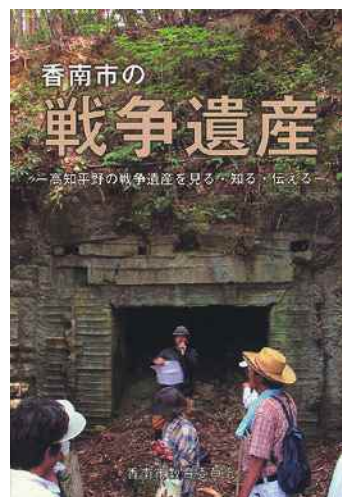
この発見をきっかけに、香南市教育委員会は市内に残る戦時中の出来事を知り、次世代に伝える目的で戦争遺跡の調査を始めました。現地に残る遺跡とともに、戦時中に使われたモノ、戦争体験談などを「香南市戦争遺産」と位置づけ、調査を行ってきました。その成果をまとめたものが本書です。

A4版・108ページで、「第一章 香南市の戦争遺跡」、「第二章 戦争体験の証言」、「第三章 戦争を伝えるモノ」、「第四章 未来へ伝えるために」の4章で構成されています。

様々な戦争体験や空襲の記録、米軍戦闘機のエンジンとプロペラ、111名の若者が亡くなった特攻艇震洋爆発事故や赤岡海岸機雷爆発事故など、収録されている遺跡・モノ・出来事は多岐にわたります。

調査を通じて戦争を体験されたみなさんから伝わってきたのは、「二度と戦争を起こしてはならない」という強い想いです。ぜひご一読下さい。

(香南市教育委員会 松村信博)



香南市の戦争遺産

※本書は香南市文化財センター・野市図書館など香南市内で購入できます。(1,000円・税込)



海軍砲台跡(手結砲台)

# 16. 高知城 –ARアプリで楽しむ高知城巡り–

高知城は初代藩主・山内一豊が慶長6年(1601)に築城をはじめ、10年後の慶長16年(1611)までに城郭のほぼすべてが完成しました。享保12年(1727)に追手門以外の建物ほとんどを焼失したため、現在の建物は宝歴3年(1753)に再建されたものです。現存している本丸の天守・本丸御殿・納戸蔵・廊下門・東多聞・西多聞・黒鉄門などの建造物はいずれも国の重要文化財に指定されています。

城内の石垣は、近江の石垣技術者集団・穴太衆<sup>あのをしゅう</sup>が築き、自然石をそのまま積み上げる野面積みが多く採用されています。鉄門にある打込ハギの石垣は、美しく積み上げられており必見です。

見どころがいっぱいの高知城をより楽しんでいただけるアプリ「高知城巡り」では、初代藩主山内一豊夫妻が城内の見どころを解説します。

また、ARで追手門の石落としを体験でき、さら

に今は残っていない二ノ丸、三ノ丸の御殿の様子をVRによる再現映像でお楽しみいただけます。高知城の特徴の一つである最上階の廻縁に出ると、遠隔操作で登城記念の写真を撮影することができます。

ぜひ、高知城アプリをダウンロードして高知城に登城してください。

(高知県教育委員会文化財課 小笠原)



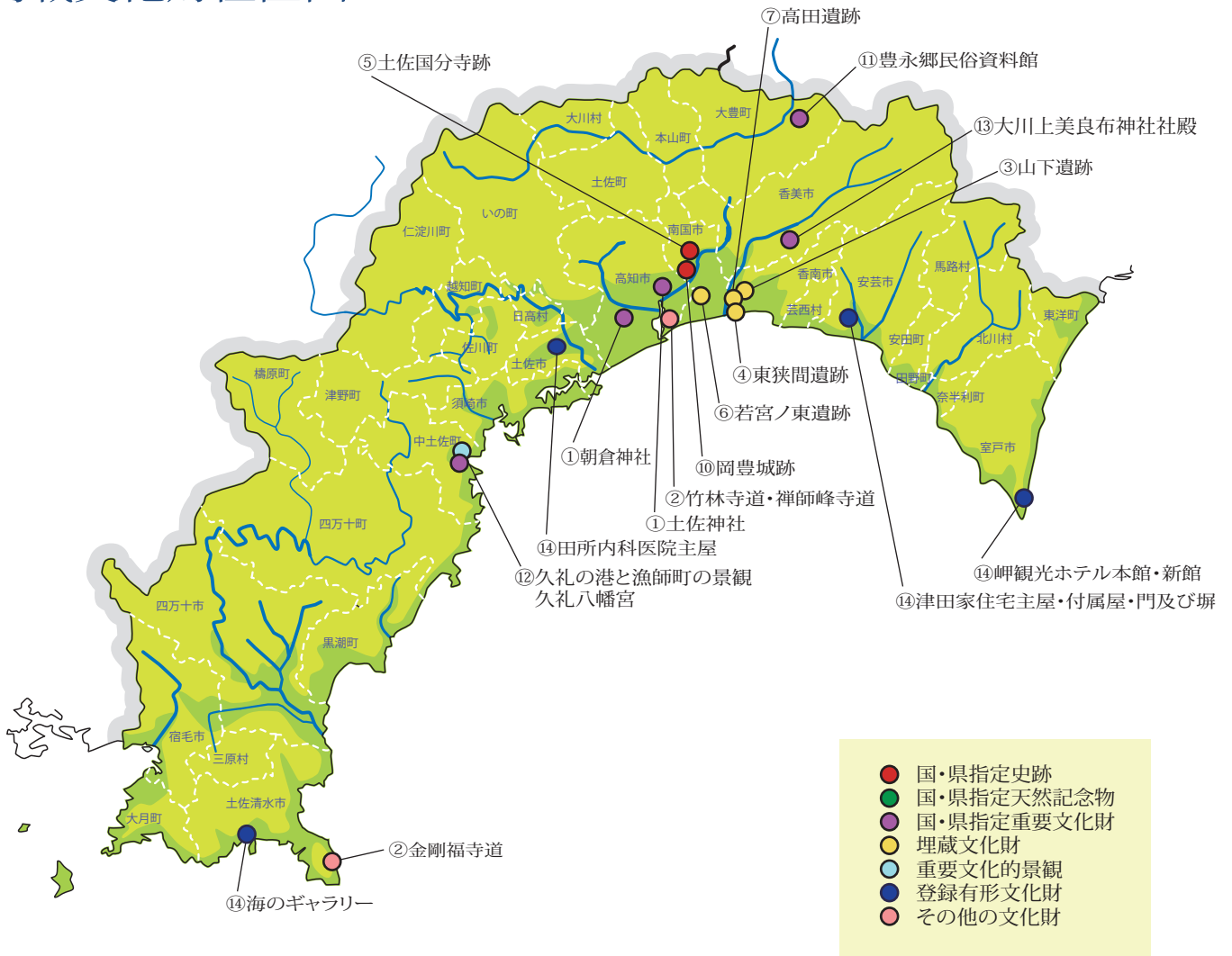
※App Store、Google Playで「高知城アプリ」と検索、または下記のQRコードでダウンロードできます。



チラシ

QRコード

# 掲載文化財位置図



みんなで守ろう文化財

## 文化財こうち 第 5 号

平成 31 年 3 月 31 日

編集・発行 高知県教育委員会文化財課

〒780-0850 高知県高知市丸ノ内 1-7-52

印刷 共和印刷株式会社